寛永諸家譜

平氏十九冊之内

支流

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186(80)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

坂部　東西

坂井　矢橋

寛永諸家系圖傳

平氏

支流

坂部

重勝

又右衛門　生國三河

長親　信忠

[illegible]十九　[illegible]

淺草文庫

法名道奥

正利

又太郎　生母同前

信忠ニ召ツレ清康君ヲ守護

六十三歳ニ而死亡　法名宗祥

正家

又十郎　遠江国　生母同前

長忠ハ召ツレ

東照大権現ヲ

三河ニ而合戦

大権現ヲ御感状ヲ

いたゝく

今度之注進

用作ス

八月朔日

元康御判

坂井又十郎ヲ

元亀元年 姉川合戦ノ時敵一人
とらせ
大権現より清盛
うしなわ七十四歳にて病死と
法名日安 幼菴院と号
正宗
又十郎江差遣 生国国ゑ
大権現うしなわれ

元亀三年 金ノ助 味方原合戦の時
首級を取り其時剣を
右度平八の馬をとり是を
味方ノ陣へ引
大権現其切と慶長
十要をとらせ
下し給
天正三年三月 長篠合戦ノ
武田右馬助信玄ノ長子

首級を切り
同六年閏合戦に付言葉を
大権現共切を清盛あり〻閏二十
五日とたまふ
同十二年尾州長久寺合戦の砌
首級を切り捨
大権現より清盛をもふ
同十四年二月九日
大権現正宗より命じ遠州袋井縄手
打ち〻〻年松倉郎左衛門を討ち
併ら正宗刀を切り底を切り始り二箇
所を通り通る
下腹より出る島岩寺丸として
切殺ス

廣勝

三十郎　三郎兵衛　生母同前
天正三年　廣勝十五歳に付大須賀

出郎殿の射庵をうり殿と
同六年十月八日を別当天神の
堀下国安河とりとく和桃四郎
有之級をかくらう共一方廣橋これ
を討れ中務太輔国を坂守豊治
板殿石川日向守久世うたの射
れを清和うり領進と
同七年九月十三日ニる天神ノ堀下
ニ海山うりとしく大須賀康高

共をまつけ堀中ノ共をうえん
とと孫者これをみく堀中にく
をうりもしく堀中うり共を
せめ者ふ高共を険難ノ地ノ
もしく敵ノ来るとなくたくかく
廣橋地勝うしく先ノ軍勢
中野江殿をうとと
同年十月廿一日を別当河上村り
とくく大須賀康高四人まる

然共とまり夢敬とうゝん坊主と
康高首七級を得るゝ其一級を
廣勝也と讃れ申すもの三宅の遠
藤

同八年三月十六日陣中より高天
神の城下天王馬場へ御陣
を康高より兵中村氏元忠より地
図をくれしてあいゝゝ廣勝と
ゝび氏家道以卿を茂武助茂治

兵部卿山傳八郎久世三四郎等
地を合ゝ敬二人を撃れけり廣勝
法地へあゝて城をかゝゝ杉下
右見守れを源和ゝ後進を
同九年三月廿二日高天神の城
没落れ河廣勝敬一人を討れ
同十年壬春甲州武田氏滅亡
然八月六日
大権現甲州新府へ御陣被遊

小条氏並甲斐信濃と水くんだ
ゆゑ四郎修理亮はしをひきくわ
張と

大檜現状法先ハ酒井左衛門大須賀
ゆ寄ゆ射大久保七郎右衛門本多
豊後守石川長門守器物二郎左衛門
宗山流武川流之修理亮をひき
ひく小条氏ハ軍中をうしい
みひしゃくあうて乙事うきろ

小條氏山を負て陣と成其間二里
計也と

大檜現状先ハ法将ハ法ハ
法ハものくしゃとおくくうち
でんとも小条氏ハ長うれ法と
遠器物ゆ寄うしと物をごく先
うゝふ其法ハ大須賀ゆ敬
と防ぎうゝ事数度うれ法
酒井寄ゆ射法卒を下ゑ軍

切とまげまず法ねをもつて敵を
寄せうちもらすべく七里の間の故
なるべしと新府城へ引つめ時廣勝
大将軍切りすぐるべしと氏直
為渡るべし陣どり
大将現と対陣するの所
小条氏若西の方へ回り出でんと
し上意出馬かをかまふ
同月廿七日法將お義と仰せ

まう出んとて大須賀これが講和
うすぐるべして行り嘆き渡
お馬あるべきとの事なり譽る渡お馬
所柳兵と云へるとて先あと所田
北兵と通しむ所田北兵出でく
そうふといへども敵大軍なる
くひきもらぐ此時廣勝軍
切あり柳沼孫六うちもらす
てこれとなる

同十二年同月九日尾州長久手
合戦ハ両方陣場を合せて数二人と
なり敵勇士大夫これとなりしかは
味方すくなうして敗北せんとす陣場
大須賀康高ハ敵を防ぎ数所
ハ引と逐康高馬と引ムして敵を
ざるふ陣場ハ及び外岩六平治
ら人数多なるこれうをぶ
同年六月

大権現駿河江漂をせめたまふ両康高
も一方ハ軍将となる陣ハ行来
ハ急なり付命長攻口なるを軍
忠を抜くしてすくうて遠州浜
参て
同年ハ杜秀吉ハ岩楽田より一文に
お張を味方こうれと迎んがためハ
なるの人を定すくく抜しふ色
なるとをそ引迎を

此時廣勝敵二人とうちとる
同十八年相州小田原陣ノ時
大指現廣勝ハ久世三四郎と
て若根二子山より出り敵ハ
と名乗て むしゃうしてニ人
とも小長柄ひきしニ子山より
のゞりこゝ神とみくゝ
と云ことを
小田原ハ城とせしゆゑ時分来ル

はゞく面長形ゆとくす陣凱歌ハ
相正信国横田村三百石ハ地と給
ゆ長也ゆ九月十八日関ヶ原合戦
ハとき
大指現廣勝ハ久世三四郎と
て相陣ハトハ初となりむ
同十九年大坂陣ハとき
台徳院殿ゝ出ひくまる敵
矢塚ハ東鳴ゆハ院ゝ三ヶ

所の柵と呼べる所を古とて色
とまりとしむ
白波院敵陣膳をしび久世三郎と
石河くのこまけく柵と攻く敵を通
ものもたやとそんや汝おこ人れ
とうぶひるべし中ばり家う
なりく二人うれうと若ていく
むやすべし若をしく
流れとうとぬせこぎたかう

めに流れたたうち鉄炮とうて
城中へ出すふのあるば
ものもいはんと煙出と
もりく二人ようて見とや
ぶ色ーとうと人ども味方色
又ひくくあらべき流りわび
ものうれとやぶんとせ今来れ
とうとすべしうれ故い味方の
大軍うるわれを味方かるべ

結宮とはくべしとうるまとひて
歌長宮くしらべとうるの
和歌しくして芝とすて地去
元和元年大坂再乱ときこの月廿日
台徳院殿頃京に陣をたまふ
早船八尾表へいづるに我はくぐ
台徳院殿落勝かとび久世三位卿かも
三位と法使として後崇和泉寺宮
井伊掃部頭直孝はくはくぐ

機り宮くしくく合戦すべしとの
なまふ三使いまこそ将りつげさる
り合戦すくくをもの
同七日歌長山なびり茶磨山も
お漫とは河原勝と久世三位卿　伊と
吹り軍つぎくいまく茶磨
山より方りしてもくく一戦と
始むべし宮くしくく法馬とす
なれ大坂すかもら没落を

同年

将軍家より湯殿

同九月

台徳院殿より下総国海上郡たるべ

矢部郡内三百石

同二年

台徳院殿より結城郡内二百石

とくだされ

同三年 是迄九十人とあゞまる

同九月

台徳院殿御上洛の時福島左衛門大夫

あゝ國國せらるゝ時より福島え

江戸にあり

台徳院殿廣勝卿へ久世三四郎

て 仕り女等いとぎ江戸より迎べ

しより福島遠州

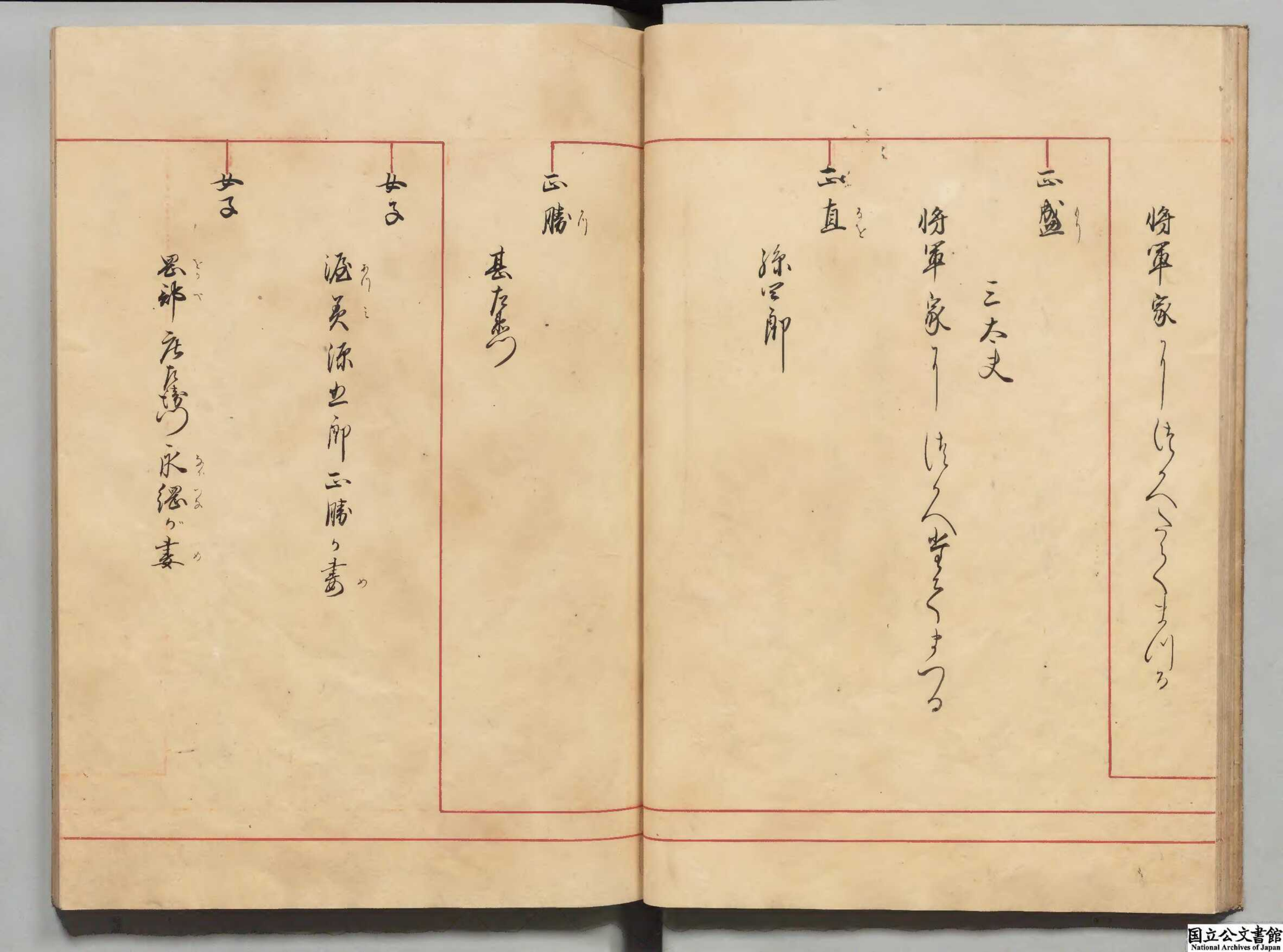
松平下野守松平式部大輔島津右京亮

京之源九郎等が兵とひいきの人

代下知をもつて法せらむ
べきのまつり法略代書二通
をもつて校合
家康ならびに諸人法度
法將と集めらるべし其
牧野太馬允花房志摩守
両人代参と称号義
ならびに諸人法度
代下知をもつて

正重

同年代参勤代として上総国
大多喜へ二万石をたまふ
同八月十一月廿日武州江戸にて
病死を業六十二　安祥院日乃と号
左五右馬　生国同国
大橋親吉
台浦院殿



将軍家[illegible]

正盛

三太夫

将軍家[illegible]

正直

孫四郎

正勝

甚左衛門

女子

滋美源也郎正勝ノ妻

女子

器部左衛門永繩ノ妻

勝宣

他十郎　生母武義

実は久世三郎廣宣の子なり養子

八歳より廣勝養育せらる

元和元年五月七日大坂陣合戦の時

敵一人を討取り接ぐく又敵と組て

遂に討死す年十五　法名宗実

女子

松下与三清利童形の書

正忠

次兵衛

大膳亮

右筆院殿

将軍家より仕へ給ふ

正勝

清涼

将軍家より清涼院へ

廣利

十郎兵衛三十郎　生母遠江横須賀

実は遠藤出羽守正勝の子なり廣勝

別家仕る

元和三年七歳にて

右遠院殿へ

将軍家より賜はる

同八年父廣勝死し家督をつぎ

出羽守に任ぜられ

寛永十二年五月十歳なり

是源出十人とあげ給ふ

言命

三ヽ助　生岡遠江

廣近

孫三　生岡武蔵

あの紋本凡

勝利実父北条図

勝右

源五郎　生母参河の
大須賀五郎左衛門尉康高の女
天正三年長篠合戦の時十九歳
敵兵一人と討ち取る
又
同四年武田勝頼遠州横須賀城

をせめ落さんが為り沖例表り
進發と呼り
大檜現法杉より沖出馬あり〻拵杉山
り陣取り〻勝右衛門と申し〻
いさ山り〻小勝右衛門と申し〻鷲山
伊八郎淺井左馬拵杉十郎り
より沼を進と此中り勝右又十郎二人
もあ敵兵を打とり
大檜現沖感あり〻沖筆頭と勝右

り たまふ
同六月十八日遠列言天祢乃塚下
岡安河り〻と申し〻あり〻あり〻
呼康言首三級と切り〻一級代
勝右衛れ〻と呼り〻中務右獨
同左後守菅沼藤兵衛石川日向守久兵
三郎家射兵を打て法杉り
遠と左後守言天祢代塚下猪賀屋
り〻と申し〻歌兵一人塚中より

又お勝右衛門を始め又高天神の
城下林屋町と申す所に
歌兵一人いたし城中にてお勝右
衛門を打ち申候
書一通とり
多勝と
大橋現作威あり八木百俵となる
同七年九月十三日康高高天神
城下三番町伝兵衛と申す者
乃者見を入れ城中にて隠密
なる体中にて無
大橋現作威
一く 高天神城へ行て傳右衛門
して 論議に城へ
べし見
論議に城へ

一人も勝右衛門と得ぐうの
大権現様を盗み奉り
勝右衛門者となりぐ遠州浜名郡
うりあるを敵方三人ある天神
様より男別りもんとも勝右
衛門と申ぐ
人者一人とうらと二人ハ逃去
大権現ゟ天神様下中村ハ伝兵衛
まけたまい勝右衛門ゟ
将ぐ
様中へ加勢
兵衛へ
ぐ家
兵衛を討
と討
又遠州道黒村ぐ敵一人を
ゟ其間七八所ぐ
ぐ逃者ぐ勝右衛門

て是を討ち
勝頼は是遠江殿より言上の儀
に入時
大権現殿より依是を問給ふ儀
の無之と云へ共重而之儀勝右
衛門と遠江殿二人を討
又武田是と遠江二役に仕ふ
時敵一人とり
又遠江殿に取敵二人を
とり
又後に田中に敵一人を
討ち
同九月言上天神に漆没落時敵一人
を討ちこの時
大権現殿是山に陣ぬ勝右衛
門尉英を平に勝頼に言上
仕時右大臣賀
とり
其命を仕事とふ

大権現先を駆ける上 伊勢
先を勝者が男年軍功賞なり
同十年甲州豆生田うとく
大権現勝者を伏兵将となる
し討首四級と切る其一級勝者
先をとる
同十二年尾州長久手一番手合戦
敵一人と討取る
合戦乃時又一人と討取

同年乃粘
大権現小牧山陣所を表出
陣と張小牧山乗出て
伏兵をとる敵を討其首二
十三級と得る其一を勝者先と
定る
同十八年小田原陣時勝者伊賀乃国
藤堂高虎と共名士三百人と
手分先を三組に伏兵

して酒匂に宿りあり時に数騎人
うれ来るを勝吉見られとて其
後と追跡をし山岸に松助を
実に松助刀を抜かれ
右力と合うに付柳原式部左衛門
移来後の御を又追来るを
直松助が拳動信人
うるく勝吉をしば為の助

底をかくしくあるく伴友
右助藩邸に参をゆき後来るく
はるく直松助をいかどるく
大怪現り動と
勇人まれる若なる長罷とゆ
すべしものくしくはわ柳原
式神左衛門
ばかりの天神合戦に間敬三人
と生補

同年北条氏康国田村郷を
三百石地となる今にいたる迄
て秀勝先と行方
不長四年
大檜現伝見向ふ
けて思田筑前守為重和泉守浅野弾
を馬場市郎兵衛
れも頭元源太郎と
名をけぶめ
先より世々頭元源太郎と
三勝
源太郎　自然　生国遠江
大檜現
紀伊大納言頼宣
長柄三十人
北地
大檜現より父勝吉
弾正三百石

廣利

十郎系　三十郎　本

秀勝

源太郎　世岡遠江

正勝ノ家督ヲ継テ新宣ヲ使フ

言命

三郎助　廣利ヲ助ケ坂部ヲ称ス

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

坂部

墓

与九郎　生国三河

童家

与九郎　実与九郎　生国同所

寛永十九年二月六日　死

歳七十三　法名行心

京次

九〻右衛門　生国武蔵

年令長十九年

白遊院殿と称し

子の級本所

●稚友

東田

藤原朝臣 生国参河賀茂郡

元亀三年十二月廿二日三方原

討死

橘右

藤原氏　生国同前

十八歳の時召抱

大橋現[illegible]

元和元年大坂陣時使者と

なりとむらうら大坂伝見[illegible]

金浪お泥の事[illegible]

[illegible]

女子

原田軍郎兵衛が母

女子

原田橘右衛門が母

橘貞

六郎三郎　[illegible]別橋須賀[illegible]

病死

種長

故宮部　生岡左記

寛永元年十月

將軍家ゟ仕官

種真

長男

種成

實ハ原田宮部ヶ家なり種長

仕官ゟ家ゟ長子

故有事

家ノ役九月三日

国立公文書館
National Archives of Japan

原因

●墓

本村久兼

相次

指右兼

母ハ原因藤右兼ノ娘故ハ母ノ氏ヲ

[illegible]て西四[illegible]と[illegible]

白滝院殿[illegible]

將軍[illegible]

[illegible]氏

[illegible]

將軍[illegible]

[illegible]乃丞九郎三[illegible]

西国

[illegible]内藤[illegible]

[illegible]

西直

内藤甚兵衛　生国三河

[illegible]

大[illegible]

雅重

甚兵衛　生国同所

幼少より父母ともに和泉屋田

敬孝にてやしなわるる故にて氏

とあらためて田と号せり

病悩あり程へ勤仕とる事あるべ

寛永十二年十月朔日死

歳六十五

雅亜

半兵衛　生国同所

元和元年大坂陣の時

大樹現ぜらるる先祖と知られ人

雅亜と同組に属し百人として松浦

内膳允あり紀伊殿家と共に渡海

し四月七日大坂にて力戦先より

出すべき弾丸に対面の上紀伊殿家

松浦肉筋先布施孫蜂屋七郎
とゝび権亟者先人ゝ騎乗と者の
しむ先ゝ同日れ書
大将現松浦肉筋先と為く権亟が武勇
と感しまい清地陣れば権亟一
人清市ゝ高市これ八月十九日能化
台徳院殿とゝび
将軍ゝ清ゝ

権春
小弟
元和九ゝ
将軍ゝ清ゝ

権信
本五ゝ

[illegible]

年号　出典あり

寛永二年[illegible]

[illegible]

[illegible]

内蔵助

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

原田

重雅

和泉　生田参河

廣忠　[illegible]

重雅

九郎左衛門　生田因幡

大稚児[illegible]

寿長十九年五月[illegible]

八十五　法名浄秀

右稚

勘解由小路[illegible]

山田原園別名[illegible]開[illegible]

[illegible]

左稚

三九郎　生母[illegible]

大稚児[illegible]

[illegible]

元和元年九月[illegible]歳三十七

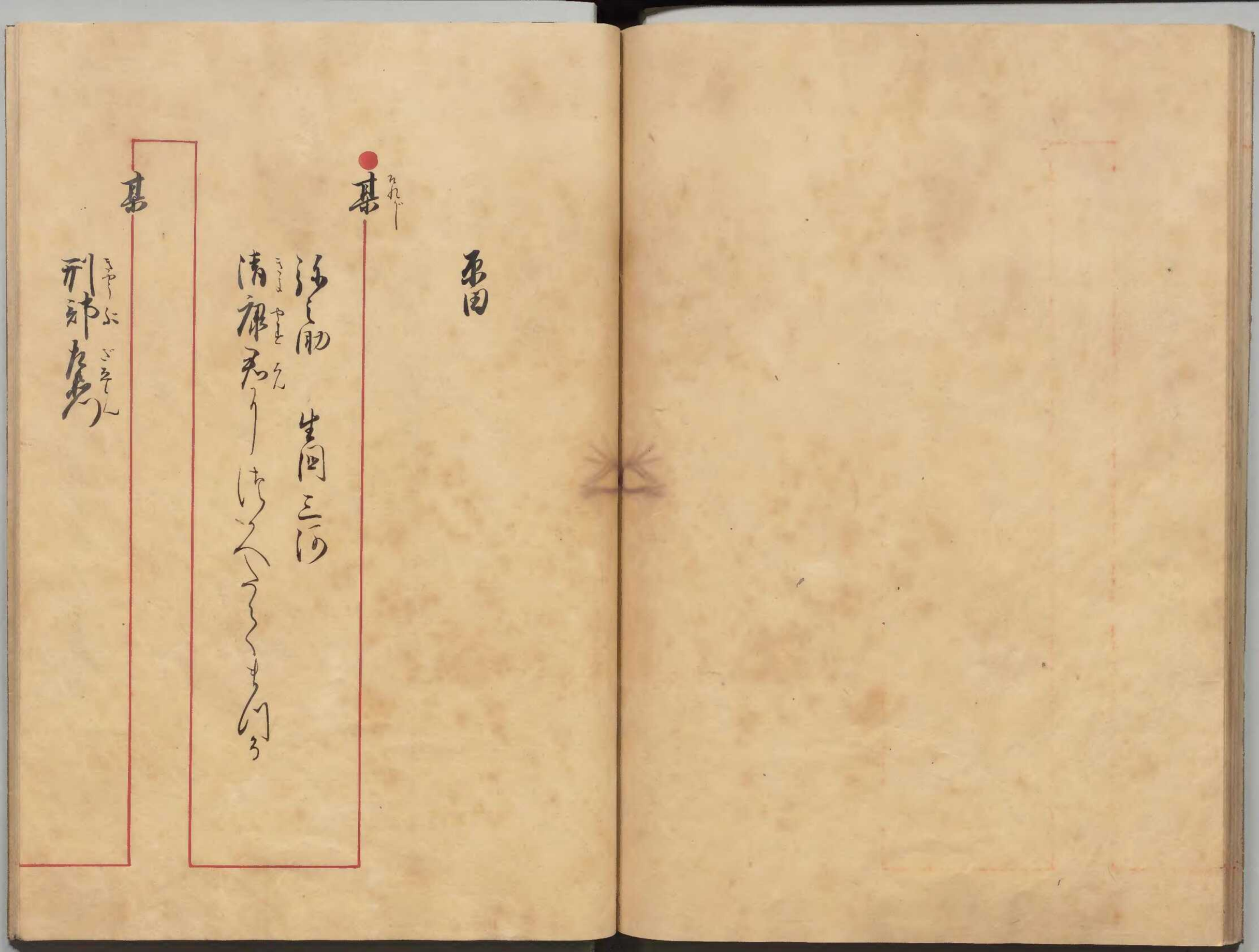
法名浄耀

左稚

三九郎　生母[illegible]

元和元年十二月ヨリ
大樹様ヨリ御書ヲ
とはせむ

夢の後九の内ヨリ三月



番付

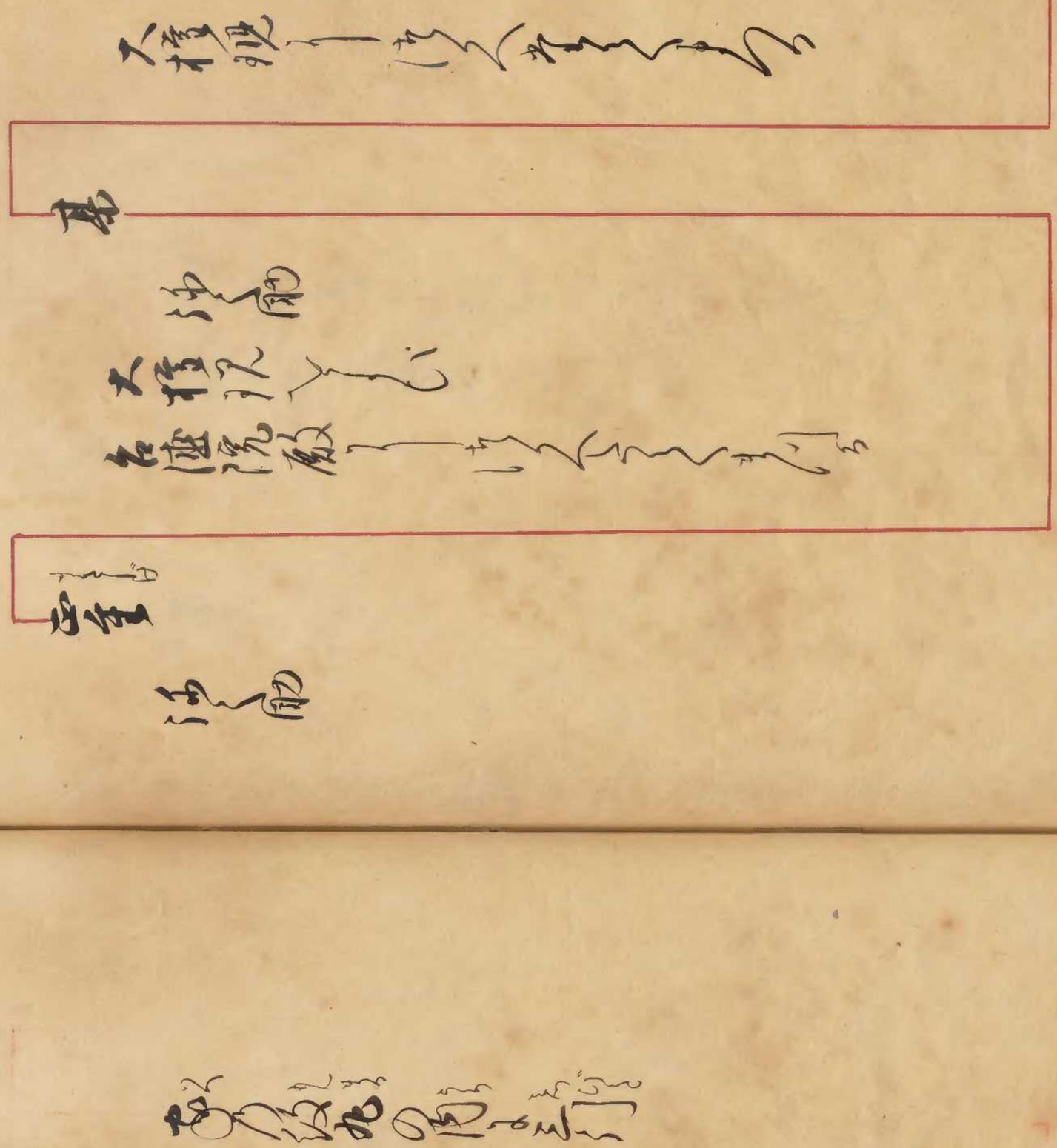
基

清水次郎長

生国三河

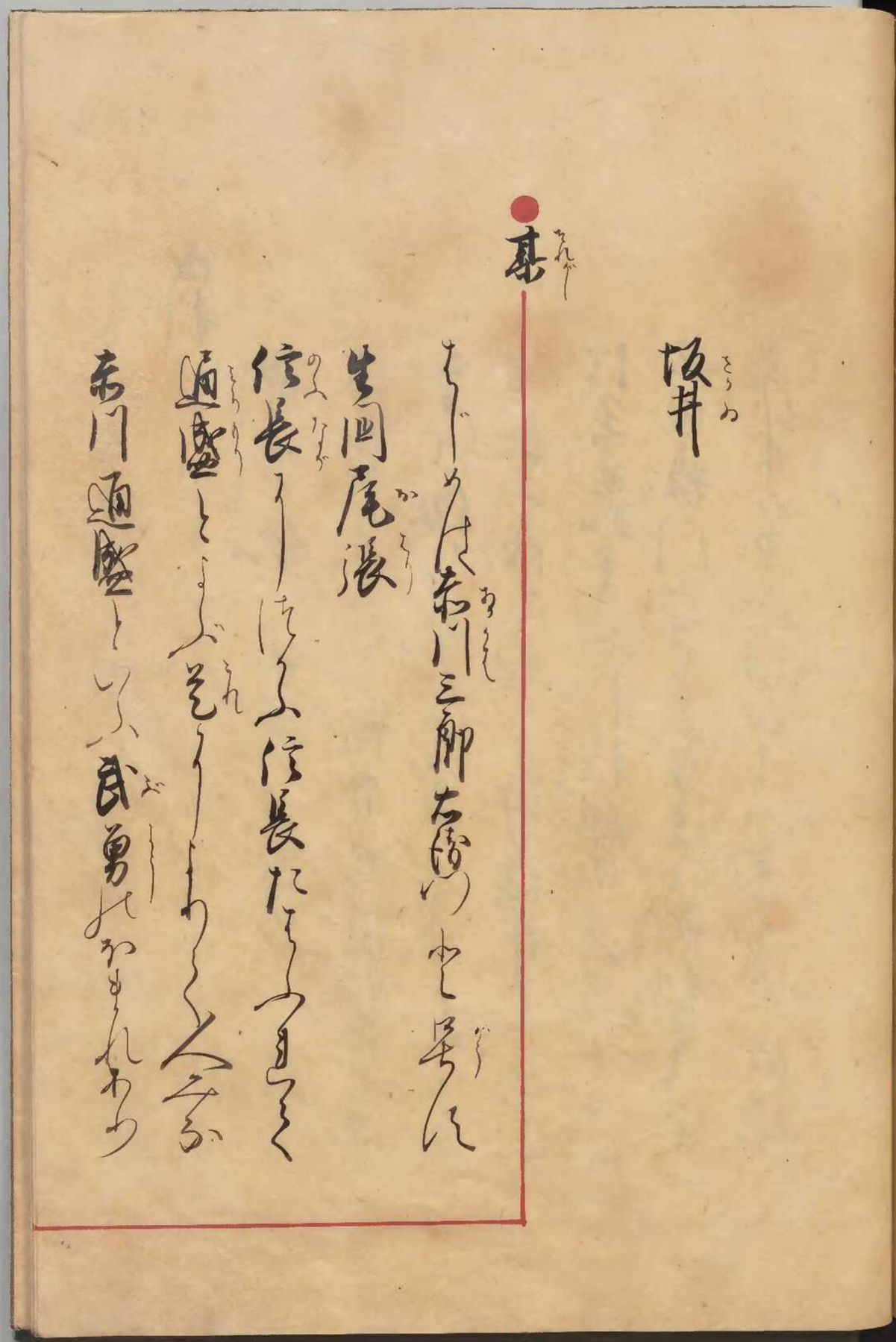
基

刑部左衛門



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan



基

坂井

そもそも赤川三郎左衛門尉基氏

生国尾張

信長に信長に目をかけ

通盛と云ふ人なり

赤川通盛と

武勇ならびなかりし

成利

坂井下総　生国同国の
信長に仕へ坂井右衛門尉と兄
弟なれ物となる
信長の信とかつて坂井と号し
信忠薨去の後信雄に仕ふ
岩田長門守と云ふもの成利とて
もとより主あり信雄

長門守をうたんため成利と尾刑
小門へ仕へむ成利ゆく長門守
死をせんとする思田勘兵衛
に星崎の城を楯籠秀吉
命ずるく信雄城をあひ
渡勘兵衛勢刑をもて
秀吉ゆえて信地二千石と為り
賞れ高とせしむ
天長五年勢刑信雄一揆ところ

成利意ニ
矢疵ヲ蒙ル　清治せむとすれども
清治

成政

生国尾張
慶長九年関ヶ原ノ御陣ヲ
金中ニ
山器道ノ係
器用ヲ監ガ父下治守ヲ
大樹現ニ
彫花

九百石ヲ
関ヶ原御陣ヲ
山器道ノ係
ヲ
大坂表ノ城ニ
大樹現堯御陣ニ
台徳院殿ニ
番ヲ
元和九年
大御
将軍家ニ

寛永二年四月三日病死
法名道英

成合

生駒伊勢
元和九年
将軍家ゟ湯殿
寛永二年十二月ゟ大御番と
法号

同十年ゟ領地之儀

成将

生駒武蔵
寛永十八年三月朔日
将軍家ゟ湯殿
乃後藤九

国立公文書館
National Archives of Japan

矢橋

安忠

材器和泉守

天正八年病死八十一歲　法名宗榮

忠重

薙髮剃髮し〻歲八と号す

江刑矢橋累代の位置なる以忠重
より村瀬氏と改く矢橋と称ス
寛長八年より
大橋現りしなるまつ忠良と称ス
元和六年丙辰病死八十八歳

宣頼

出羽守
寛長十四年

白藤院殿りしなるまつ

重好

頼母助
寛永十一年より
将軍家りしなるまつ

家の役 也星

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan